

昨年の12月下旬のことである。見慣れぬメールが届いていた。何だろうと開いてみた。そこには、こんな文面があった。タイトルは、「国語教室通信 窓 について」だった。

高澤正男先生

初めまして。島根県で教員をしております〇〇〇〇と申します。

自分の授業をよりよいものにしたい、と思い、『表現者を育てる授業』を拝読しました。

表現活動に慣れていない私にとって、丁寧かつ具体的に解説されていて勉強になりました。

さて、表題の件について、巻末のPRにあります国語教室通信をぜひ読みたいと思っております。

ご返信いただけたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

島根県の先生が、2023年9月に出版した『表現者を育てる授業—中学校国語実践記録—』を読んできたということか。確かに、著者紹介の最後に、以下のメッセージを載せておいた。

〈ささやかなPR〉

本書の資料編とも言うべき「国語教室通信『窓』」というものがあります。製本されたものです。ご希望の方は、メールにてご連絡いただければ送付いたします。

今まで、県外からこのような問い合わせはなかった。早速、レターパックで送った。出版されたばかりの『人生は、燦燦と 校長室だより100選』も同封した。送り先は、島根県の出雲だった。出雲大社を目指して車を走らせていたところ、空気が急に変わったことが蘇ってきた。出雲は、特別な場所である。

出雲の先生のおかげで、若い頃の自分を思い出した。教育書を読んでいると、もっと詳しく知りたくなることがある。ご本人に聞きたいことが出てくる。香川県の先生に電話をして、詳しく話を聞いたことがある。横浜の先生に電話をして、資料を送ってもらったことがある。岩手の先生に電話をして、資料をいただいたことがある。静岡の先生には、直接会いに行った。そして、話を聞いた。今思えば、勇気があるというか、無謀というか。どのお話も資料も役に立った。勉強になった。感謝しかない。

今回は、逆の立場になったわけである。レターパックには、以前まとめた実践資料も入れた。どのくらいお役に立てるかわからない。この本の「はじめに」は、次の一文で閉じられている。

若かった頃の私のように、日々の国語の授業で悩み苦しみなながらも、何とかしたいとものがいている先生方にとって、灯台のような存在になれば幸いです。

果たして、灯台になれたのだろうか。出雲の先生の授業が楽しみである。ぜひ応援したい。